

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270500368		
法人名	特定非営利活動法人 トライアングルサークル		
事業所名	グループホームたんぼぼの家	ユニット名	
所在地	長崎県大村市大川田町424-2 1階		
自己評価作成日	2022年 12月 31日	評価結果市町村受理日	2023年 3月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topi%iyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年 2月 13日	評価確定日	2023年 3月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所系列の「保育所」「学童」「児童発達支援事業所」「児童デイサービス」が隣接しており子供たちの姿を目にすることが出来る。また、駅近バス停、郵便局、銀行、スーパーが徒歩で行ける距離にあり利便性が高い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“たんぼぼの家”は開設から22年を迎える。長く務める職員も複数おられ、職員の自宅の庭に咲く花をリビングに飾り、ご利用者と一緒に季節を楽しまれている。コロナ禍も変わらず、ご利用者の楽しみや役割を増やすように努めてこられ、洗濯物たたみや新聞折りをされたり、一緒におやつや干し柿を作り、カラオケなどを楽しまれている。愛用のラジカセで歌を聞かれる方、お花が好きな方は生け花を楽しまれ、お得意の縫い物をして下さる方もおられる。感染対策をしながら大村公園の桜や菖蒲の花見、かやぜのイルミネーション見物、野岳湖公園にお連れしており、季節を感じるひと時となっている。2020年9月に大村市大川田町に新築移転し、複数の系列事業所との協力が体制が築けている。窓から保育所や学童の子ども達の笑い声を聞くことができ、散歩の時も園庭の子ども達と手を振り合っている。移転とコロナ対応が重なった2年半であったが、管理者を中心にチームワークも良く、「ゆっくりと自分らしく共に暮らす」という理念の実践に努めてこられた。ご利用者の中には言葉での意思疎通が難しい方もおられ、日々の生活の中で職員の方々は優しく寄り添い、心と心で通じ合えるようになっている。今後も家族や地域の方々との交流の機会を作り、日々の楽しみや外出の機会を増やしていきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、 不安なこと、求めていることをよく聴いてお り、信頼関係ができて (参考項目：9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで 暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の開 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている (参考項 目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで 生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目：30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に 応じた柔軟な支援により、安心して 暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎朝の申し送り、定例会の際に理念・基本姿勢を唱和し気持ちを引き締め、業務に入っている。</p>	<p>コロナ禍において、職員のチームワークは更に良くなり、職員全員で結束して理念の実践に努めている。「ゆっくりと自分らしく共に暮らす」という理念を大切に、ご利用者個々の生活歴や家族状況、好きな事などを丁寧に把握し、日々の生活に取り入れている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>運営推進会議を通して民生委員の方情報交換を行っている。</p>	<p>移転後、近隣の方々へのご挨拶を行い、顔馴染みの関係になり、野菜の差し入れをして下さる。隣接する学童や保育園の子ども達から手作りのプレゼントやしめ縄を持って来て下さり、ご利用者もハロウィンの時に仮装し、玄関先での交流を楽しまれた。移転前は「地域の方へのご恩返し」の想いを大切に、地域の方々と「お茶会」を開催する事ができ、「松原くんち」で踊りの見学、野岳の茶市等に参加していた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>民生委員の方を通じて地域の方々に気軽に見学（窓越し）に来ていただきたいとお話をしている。見学していただくことで、認知症への理解や支援をお願いしている。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で頂いた意見をもとに、スタッフ間で情報共有し、意見交換しながらサービス向上につなげている。</p>	<p>2020年3月から書面会議になっている。移転状況、日々の暮らしぶり、行事、災害対策（避難訓練）等の報告を続けており、コロナ禍における労いなどのメッセージを頂いている。外部評価結果も報告し、事故報告に関して具体的なアドバイスを頂き、事故の起こりやすい状況を把握することで対策に繋げるようにしている。</p>	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で事業者の実情や取り組みを伝えている。</p>	<p>2022年、大村市の職員が防護服などを届けて下さった。ケアマネが市役所を訪問すると共に、コロナ対策のメールも多数届き、日々のケアに活かしている。帰宅願望がある方のことを市役所職員に相談し、ご本人に直接説明して頂いたり、事故報告のアドバイスも頂いている。コロナの感染状況に応じて、介護相談員の訪問を受け入れている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>2ユニット合同で2か月に1回リスクマネジメント・身体拘束廃止委員会・勉強会を開いている。</p>	<p>「身体拘束をしない」方針であり、入居の際に「入居で考えられる危険性に関する説明書」という書面で説明し、同意を頂いている。職員の寄り添いもあり、穏やかに過ごされる方が多く、感情が不安定になられた場合は原因を把握している。リスクマネジメント委員会で「身体拘束廃止委員会」「虐待防止委員会」も開催し、虐待の種類、介護現場での身体拘束（3ロック）について更なる勉強をしている。「自己チェックシート」も活用し、言動の振り返りを行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>権利擁護の確認を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会にて権利擁護や成年後見制度について学んだ。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に家族が理解し納得されるように説明し、変更点などがあった場合は文面にて説明し同意を得ている。</p>		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に意見箱を設置している。また、家族の面会時、ご意見ご要望がないか伺い、運営に反映でき量にしている。	コロナ禍は玄関のガラス越しに面会をして頂いている。コロナ以前と変わらず、暮らしぶり等を“たんぼぼだより”で報告し、担当職員がメッセージを手書きしている。電話等で密に情報交換する機会を作り、家族への心配りを忘れず、思いや意向の把握に努めている。コロナ以前は敬老会（家族会）を行い、家族同士の交流の機会にすると共に、家族アンケートも行い、要望等を伺っていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や定例会、または日々の業務中などで職員から意見・提案を聞き、運営に反映している。	職員の助け合いも素晴らしく、コロナ禍の対応を含めて更なる結束ができています。長く勤務する職員もおられ、管理者・ケアマネを中心に職員個々の意見を伝え合い、最適な方法の検討を続けている。優しく明るい職員が集い、ご利用者の笑顔を引き出しており、理事長も職員の頑張りが高く評価している。人員体制等も理事長等と共有し、対策の検討に繋げて下さっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力している職員に対し、年に2回の特別処遇手当が支給されている。休暇に関しては事前に希望休を聞き、希望に沿うように勤務調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが希望する研修や、受講の必要な研修に関しては、積極的に参加するよう促している。また、施設内でも研修を行っている。研修時に休暇の職員に対しては時間給が支給される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や各駅停車に参加し、そこで得た情報をスタッフに伝えケアの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入に際し、本人様の意向や意見を聞き取り、それに沿いながら無理をされないようスタッフとの信頼関係を気づけるよう努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にご意見やご要望などないか、直接または電話などで伺いサービスにつなげるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人から得た情報をもとに適切なサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々コミュニケーションを図りながら、入居者ご自身が出来ることをご自身でいただけるように支援している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、近況をお伝えし、変わったことがあった際には、電話や直接話して情報交換を密におこないながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限緩和のため、元同僚の方や親戚の方との（条件下で）面会ができるようになった。	コロナ禍も家族と玄関先で面会して頂いている。職場の同僚の方が面会に来られたり、馴染みの方に年賀状を出している。家族の希望があり、お孫さんの結婚式にお連れし、白無垢姿を見て頂くことができた。コロナ以前は家族と墓参りや美容室、馴染みの場所のドライブも行われていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の強い希望で居室にて食事されている方がいるが、孤立されないようにレクリエーションなどには声をかけて参加して頂くよう促している。入居者様同士の相性を考慮し、テーブルの席を配置している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去された後も、ご本人やご家族と連絡を取り合い必要に応じて支援を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活になかで得た本人様の思いや意向を聞いた際は職員間で情報共有したり、意思表示が困難な場合はその方の表情をみながらお気持ちを把握するよう努めている。	「私の暮らし方シート」に生活歴等を記録すると共に、好きな色、得意な事、信仰等を記録している。日々の生活の中で要望や思いを引き出し、日々の表情や行動等から思いの把握に努めている。「お花が好き」「縫物が得意」「歌が好き」等を把握し、日々の生活の中で役割や楽しみの機会が作られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から得た情報や生活歴などを全職員で共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活のリズムや病気があるため、それぞれの違いを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族・スタッフ間で話し合い、それぞれの意見を参考にしながら、現状に即した介護計画を作成している。	心身状況や生活習慣、要望等を踏まえ、主治医や看護師からのアドバイスも頂き、介護計画を作成している。洗濯物たたみ、縫い物、花の水やり、歩行訓練、散歩等と共に、家族の役割も記入している。子ども好きな方もおられ、保育園や学童の子ども達と窓の外から挨拶している。	①今後もアセスメントで心身機能の評価（できそうなこと）を行うと共に、日常生活の活動や役割に関する能力を評価し、介護計画との整合性を整えていく予定である。 ②各活動の要望の記載も増やし、日課表の中に24時間のケア内容（できる事・留意点）を詳細に記録し、家族との話し合いの機会を増やす予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員からの気づきや状態の変化は、記録に記載し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多職種と連携し、入居者様にあった支援やサービスが受けられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為に十分にできていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様また家族の同意の上で受診の支援を行っています。	内科・皮膚科・歯科医師・歯科衛生士の訪問があり、通院時は看護師が介助している。希望の医療機関に受診できるが、住診体制がある事で、協力医療機関に変更される方がほとんどである。24時間体制で看護師と管理者、ケアマネに相談でき、職員の安心になっている。職員の観察力もあり、早期対応に繋げており、毎日の機能訓練で身体機能の維持向上に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変など気づきがあれば、すぐに看護師に報告・相談をしています。そのうえで、受診や処置が必要と判断して支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になられた場合は直ちにケアマネによるサマリーの作成、協力医への報告・情報提供者書の依頼を行い、入院中も情報交換を行いながら、退院後の受け入れなども見据えて、連絡を取り合うようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいると思います。	入居時と体調変化時に「今後のこと」や「医療内容の要望」等の意思確認を続けている。「最期までホームで」と希望される方がほぼ全員で、家族と協力して誠心誠意のケアが行われている。24時間体制で往診を受けられ、ホームの看護師に相談できる。終末期は医師からの説明があり、必要に応じて点滴や酸素療法も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「急変時の対応」「終末期の対応」についての勉強会を行っています。緊急時の対応についてはマニュアルを作成し、常に目に付くところに掲示するようにしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルにて、避難訓練や避難経路の確認を消防署の指導のもとで定期的に行っている。	2020年9月に移転した際は2階の「たんぼぼ憩いの家」・隣接するデイサービス・サ高住・学童合同と避難訓練（日中想定）を行った。2022年度は2階のホームと夜間想定の自主訓練を続けている。災害に備えて飲料水や非常食、自家発電機、防災ラジオ等を準備し、福祉介護避難所の指定も受けている。BCP（事業継続計画）も作成しており、災害時等は避難所の「旗」を利用し、地域貢献を行うと共に、自然災害の訓練も行う予定である。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、利用者が穏やかに生活できるように対応や言葉かけに注意している。	職員は一人ひとりの生活歴や性格を把握し、ご利用者に対して優しい声かけを続けている。排泄ケア等の誘導時も声の大きさに注意し、自尊心を傷つけないように配慮している。「自己チェックシート」も活用し、言動の振り返りを行っている。言葉遣いが強くなる際は、職員間で話し合いができる環境作りを続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が威圧的でなく、利用者が自分の思いや意向を話しやすくなるように、言葉かけや接し方をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のリズムで生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で化粧ケースを持ち、毎日化粧をできるよう居室に机を置いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、パンを食べたいと言われる方にはパンを提供している。下膳が出来る方には各自で行っていただいている。また食後のテーブル拭きもしていただいている。	朝はホームで調理している。昼食、夕食の副食は系列の施設で作れ、ご飯はホームで炊いている。ご利用者の要望も伺いながら美味しい料理が作られ、地域の方から野菜の差し入れもある。職員持参のツワ等の皮むき、干し柿作り、トレイ拭き等をして下さる。パンの日やお寿司の出前を取る日もあり、楽しいひと時となっている。今後も味噌作り等を復活する予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し把握する。状態の応じて食事形態を変更している。栄養が摂れていない場合は栄養補助食品を、水分が足りない場合は好みのジュースや紅茶などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にその方に合わせた口腔ケアを実施している。訪問口腔ケアの依頼し指導をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けを行っている。訴えができない方には、しぐさや行動をみて誘導している。	下着を着用し、自立している方もおられる。排泄ケアを検討し、体調や経済面にも配慮し、パッドの必要性を検討している。必要に応じて個別誘導しており、リハビリパンツから下着に移行できた方や、夜間の失禁が減った方もおられる。ベッド上の生活の方も、座位が取れる方はトイレで排泄できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操を実施し、定期的にヨーグルト等の乳製品を提供している。便秘の方は水分を多めに取ってもらうようにしたり、下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の日程は施設で決めているが、ご本人様に入るかどうかを聞くようにしている。また、体調に合わせて対応している。	お風呂好きな方ばかりで、湯船にゆっくり浸かり、職員との会話を楽しんでいる。笑い声や歌も聞かれ、菖蒲湯や柚子湯も楽しまれており、シャワー浴の方も足浴の湯に柚子を浮かべている。皮膚の状態で個別にタオルやボディソープを準備し、できる範囲を洗って頂いている。今後も湯舟にゆっくりと浸かれるように福祉用具の購入の検討を行う予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝時間は、その方の希望に沿うように対応している。夜間帯は専用のオムツパッドを使用し安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月、薬歴表を作成し記録ファイルに挟め、誰でもすぐに確認できるようにしている。変更時もその都度、申し送りノートに記録し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食事トレイ拭きを毎日の役割としてしていただいている。気分転換として外気浴や散歩をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外食支援を行っていたが、コロナ禍で行けていない。	隣接する保育所の園児の姿が窓から見え、ホーム周辺の散歩の時に園児に手を振っている。感染対策をしながら大村公園の桜や菖蒲の花見、紅葉狩り、かやぜのイルミネーション見物、野岳湖公園等に行かれている。郵便局で葉書を購入し、手紙を書かれる方もおられ、一緒に郵便局で投函している。移転前（コロナ以前）は地域行事に参加し、松原くんち、買物、新茶まつり、案山子見物、バイキング等を楽しまれていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な時は立替金を使用できる体制ができています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方などでなかなか面会できない方にはテレビ電話での対応し交流している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お昼寝時、入眠しやすいようブラインドを下げている。また、季節を感じてもらえるように、ホールに花を生けたり、飾りつけをしている。	ホームは1階にある。玄関入口にプランターがあり、花の水やり等をされている。リビングは明るく開放感があり、ご利用者と季節の飾り付けを行い、職員の自宅の庭に咲く花も飾られている。トイレには炭を置き、適宜消毒や掃除、換気をしている。ソファで昼寝をされる方もおられ、カラオケも楽しまれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや居室にテーブル席やソファを設置し、過ごしたい場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からのプレゼントや、亡くなられた奥様・ご主人の写真を飾っている。また、以前の職業に関するポスターを居室に掲示している。	テレビとベッド（普通のベッドと特殊寝台）はホームの備品で、ご本人の移動能力に応じてベッドの向きを変えている。 職員と一緒に洗濯物をたたみ、馴染みのダンスにしまわれたり、愛用のラジカセで歌を聞かれる方、お花が好きな方は剣山等を持ち込み、生け花を楽しまれている。家族の写真や遺影等も置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を作成し、迷われないようしている。廊下やトイレの手すり設置あり。エレベーターが設置している。		